

●相談支援と連携についての現状と課題(庁内自殺対策連絡会より)

・催告状送付時に「総合相談」のチラシを同封しているが相談件数伸び悩む。周知が難しい。
(税務課)

・ほとんどが経済的な問題に関する相談。貸付け等で社会福祉協議会との連携多い。包括的支援や重層支援を進めていく。(社会福祉課)

・窓口は高齢の方が多い。催告状送付時に、「総合相談」の案内をしている。(保険年金課)

・同じ人からの電話、メールが多い。ストレスから自傷行為のある人もいる。就職氷河期相談も受けている。主訴が見え難いことも課題で丁寧に相談に乗るよう心がけている。

(商工労政課)

・児童生徒相談、ソーシャルワーカー、その他各教職員が相談を受けたり、引きこもり相談でも対応している。自死は年間数件あるが、昨年は自殺リスクがある10件が回避できた。不適応や不登校の生徒が増加している。(学校教育課)

・園に色んな悩みが上がってくる。担任はじめ、園長まで全職員がそれぞれ対応している。ひとり親が増え、精神的にしんどい親も増えている。(OD、DV、自宅から出れず迎えに行けない等)親自身が相談の一步を踏み出せない人が多い。依存してくる親の対応をどうしたら良いか悩む。(幼児課)

・消費生活相談は、多重債務が多く社会福祉課との連携が多い。(自治振興課)

・ほとんどが経済的な問題に関する相談。貸付け等で社会福祉協議会との連携多い。包括的支援や重層支援を進めていく。(社会福祉課)

・本人から申し出があれば窓口で必ず他課連携している。認知症が気になる人は長寿福祉課に繋げたりしていた。(総合窓口課)

・主な相談者は母子。内容は子育て相談が多く、家庭児童相談室や発達支援課、社会福祉課、商工観光労政課、障がい福祉課、保育園との連携が多い。外部は他市町との連携が多い。連携時は繋ぎ先が分からないこと、連携相手との感覚(認識)のずれが課題と感じる。

(健康増進課)